

第6学年 家庭科学習指導案

場 所 6年2組教室
児 童 6年2組 33名
指導者 中村 さやか

1 題材名 見直そう 朝の生活 「ほっと野菜いため作りにチャレンジ」

2 題材のねらい

本題材は、学習指導要領の「A 家庭生活と家族」の「(2) 家庭生活と仕事」及び、「B 日常の食事と調理の基礎」の「(1) 食事の役割」「(2) 栄養を考えた食事」「(3) 調理の基礎」を受けて設定したものである。

本題材は、生活時間の使い方や日常の食事と調理の学習を通して、自分の生活時間を見直したり家族と共に過ごす時間や家族の生活に協力する時間を生み出したりすること、また、朝食の大切さに気付くとともに、朝食の調理に関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けることによって、進んで生活をよりよくしようと工夫したり実践したりしようとする姿を目指す。

3 題材の指導構想

(1) 児童について

児童は、家庭科の学習に高い興味や関心をもっている。特に自分で調理したいという思いが強く、食に関する学習への意欲が高い。児童は、5年生の「かんたんカレー作りにチャレンジ」「ゆで野菜サラダ作りにチャレンジ」「GOODご飯&GOODみそしる作りにチャレンジ」の学習において、安全で衛生的な用具や材料の扱い方、調理実習の仕方、ゆでる調理、ご飯とみそしるの調理、栄養素とその働きなどを学んできた。また、「見つめてみよう 家庭生活」「つながろう 家族との団らん」の学習において、家族の一員として自分にできる仕事を増やしていくこと、家族との触れ合いや団らんの大切さについて学んできた。

事前アンケートでは、自分の生活時間について工夫している児童は4割弱、その中で家族と関わる時間を作ろうとしている児童が3人いた。この結果により、自分や家族の生活をよりよくするために生活時間を工夫している児童は少ないことがわかった。また、家庭において調理をしたことがある児童は約8割と多いが、朝食を作ったことがある児童は全体の2割強、調理を日常的に(週1回以上)する児童は約1割と少なかった。調理への意欲は高いものの、日常の仕事ではないことがうかがえる。本題材で学習するいためる調理については、約8割の児童が経験している。

これらのことから、生活経験や実態の個人差に配慮しながら学習を進めていくことと、家庭における実践につながるような学習にしていけることが必要であると考えた。

(2) 題材について

本題材は、主に「生活時間の工夫」「朝食の役割」「食品の組み合わせ」「いためる調理」などの内容を取り扱っていく学習である。

「生活時間の工夫」の学習では、自分の生活時間を見直す活動を通して、生活時間を工夫して家庭生活をよりよくしようとすることや、家族と共に過ごしたり協力したりすることの大切さに気付くことができるようにする。「朝食の役割」「食品の組み合わせ」「いためる調理」の学習では、朝食の必要性や朝食に大切な要素を考えたり、いためる調理でおかずを作ったりする実践的・体験的な活動を通して、よりよく1日をスタートするために朝食を大切にする気持ちをもつことができるようにするとともに、実際に朝食のおかずを作るための基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けられるようにしていく。また、家族のための野菜いための実践計画を立てる活動を通して、家庭実践にもつながるようにしていく。

6年生になり自分でできることが増えてきている児童にとって、自分の生活を見つめ直したり、体験的な学習活動を通して生活に必要な知識や技能を身に付けたりすること、さらに、家族のための家庭実践のイメージを具体的にもつことは、「してもらう自分」から「できる自分」へと成長していくために重要な学習であると考え。また、朝食の役割を再確認し、調理の幅を広げることは、児童の将来につながるものであり、今の時期の児童に適した題材であると考え。

(3) 指導にあたって

指導にあたっては、よりよい生活やよりよい食生活への意識を高め、児童が思いをもって主体的に学習を進め、新たな知識と技能を身に付ける喜びを実感できるようにすることを通して、家庭生活で実践しようとする態度につなげていきたい。

<自己と「事象」とのつながり>

自分の生活から課題意識をもち、見通しをもって学習を進められるようにしていきたい。そのために、題材との出会いの場面において、家族と共に過ごしたり協力したりする「ほっとタイム」の必要感をもつことにつながるようなアンケート結果や資料などの提示をする。さらに、本題材で取り扱っていく内容を家族のための「ほっと」という言葉でつなぎ、「ほっとタイム」を充実させるために「ほっと野菜いため」を作るというストーリー性をもつことによって、いためる調理への意欲を高められるようにする。そして、題材の最終段階においてできるようになりたいことを表現する活動を行ったり、学習のゴールを確認したりすることで、題材の学習全体の見通しをもつことができるようにしていく。また、1単位時間においても、課題意識を高める導入とその課題を解決するための実践的・体験的な活動を繰り返すような題材構成にしていく。

<自己と「友達」とのつながり>

実践的・体験的な活動を各時間に取り入れ、同じ体験をもとに「友達」と学び合うことができるようにすることを通して、個の学びが共有され、「事象」（その時間の学習内容）への理解がより深まるようにしていきたい。そのために、実践的・体験的な活動を課題意識に即して位置付け、自分の考えをもった上で友達の考えと関係付けながら学び合うことができるようにしていく。特に調理実習では、1回目の調理について話し合った内容を確認しながら2回目の調理を行う場面を設定したり、既習の作り方と新しい作り方を比べることで調理のポイントに気付く場面を設定したりしていく。その際に、学び合う視点を明確にしたり、学び合う際の発問・グループ構成・板書・補助資料などを工夫したりすることで、思考のつながりや深まりを促すようにしていく。

<自己と「未来」とのつながり>

一単位時間ごとに学んだことを書きためていくようにする。その際に、学習の中で身に付けた資質・能力を自覚できるようにしていくとともに、1枚のプリントに「いためる技」「朝食の大切さ」などテーマにそったまとめ方をして、基礎的・基本的な知識の理解も深めていく。さらに、いためる調理の学習では、その時間に学んだことを家庭で作る「ほっと野菜いため」にどのように生かしたいか「ほっとメモ」としてまとめ、積み重ねたものを活用して野菜いための実践計画を立てるようにする。題材全体を通して、できるようになったことを自覚したり、家族のための「ほっと」を意識して意欲を持続したりしていくことが、「未来」（次時・家庭実践）へつながっていくと考える。

また、題材の最後には「ほっと野菜いため」の実践計画を友達と検討し合う活動を設定する。様々なポイントで計画を見直したり、友達の計画のよさを取り入れたりすることが、家庭で実践することへの意欲と見通しにつながり、家庭実践をすることで、できた喜びの実感につながると考える。

4 題材の指導計画

(1) 目標

- ・ よりよい生活と朝食作りに関心をもち、生活時間を工夫する活動や「ほっと野菜いため」作りを進んで取り組もうとする。 **【家庭生活への関心・意欲・態度】**
- ・ 食品の組み合わせ方やいためる調理の仕方を工夫し、目的に合った「ほっと野菜いため」の調理計画を考えることができる。 **【生活を創意工夫する能力】**
- ・ 材料や目的に応じて、いためる調理をする。 **【生活の技能】**

- ・ いためる調理の特性，いためる調理に関する基礎的・基本的な知識，朝食の役割，食品の組み合わせ方を理解する。

【家庭生活についての知識・理解】

(2) 評価規準

家庭生活への関心・意欲・態度	生活を創意工夫する能力	生活の技能	家庭生活についての知識・理解
よりよい生活と朝食作りに関心をもち，生活時間を工夫する活動や「ほっと野菜いため」作りを進んで取り組もうとしている。	食品の組み合わせ方やいためる調理の仕方を工夫し，目的に合った「ほっと野菜いため」の調理計画を考えている。	フライパンやこんろを安全に正しく取扱いながら，適切な切り方やいため方でいためる調理をすることができる。	いためる調理の特性，いためる調理に関する基礎的・基本的な知識，朝食の役割，食品の組み合わせ方を理解している。

(3) 指導計画（全9時間 本時9／9）

	時	学習活動	評価
I ほ っ と タ イ ム を 作 ら う	1	◎生活時間の見直し ・ 自分の一日の生活時間調べをする。 ・ 生活時間の使い方について話し合う。 ・ 「ほっとタイム」とは何か考える。	◇ 生活時間の使い方に関心をもち，家族とともに過ごす時間を大切にしようとしている。 【関】A(2)
	課 外	・ 「ほっとタイム」をもつことができるような生活時間の使い方の実践計画を立てる。	
	2	◎「ほっとタイム」の実践計画の交流 ・ 自分の実践計画を発表する。 ・ それぞれの計画のよさを話し合う。 ・ 自分の実践計画を修正する。	◇ 目的に合った「ほっとタイム」を作るための生活時間の使い方を工夫している。 【創】A(2)
	課 外	・ 計画をもとに家庭で実践を行う。 → 掲示板で交流する。	
II ほ っ と 野 菜 い た め 作 り に チャ レ ン ジ	3	◎朝の「ほっとタイム」について ・ 「ほっとタイム」を充実させるために，さらにできることを話し合う。 ・ 朝の「ほっとタイム」のイメージをもつ。 ・ 今後の学習の進め方を確かめる。	◇ 朝食作りに関心をもち，朝食の役割や大切さ，どんな朝の「ほっとタイム」にしたいかについて，進んで考えようとしている。 【関】B(2)(3)
	4	◎いためる調理について ・ いためる調理の特徴を話し合う。 ・ いためる調理で考えていきたいことを話し合う。 ・ フライパンの取扱い方を知る。	◇ いためる調理の特徴やフライパンの取扱い方を理解している。 【知】B(3)
	5	◎たまごのいため方 ・ スクランブルエッグの作り方を確かめ，実習する。 ・ たまごのいため方をまとめる。 ・ たまごや加工食品の扱い方を知る。	◇ スクランブルエッグの基本的な作り方，たまごや加工品の扱い方を理解している。 【知】B(3)
	6	◎野菜のいため方（キャベツ） ・ 野菜のいため方を確かめ，実習する。 ・ 材料によるいため方の違いを考える。 ・ 野菜のいため方をまとめる。	◇ 野菜いための基本的な作り方を理解し，フライパンを安全に正しく使っていためる調理をすることができる。 【知】・【技】B(3)
	7 ・ 8	◎三色野菜いための実習 ・ 三色野菜いための作り方を確かめる。 ・ 三色野菜いための実習を行う。 ・ できばえを友達と交流し合う。	◇ 適切な作り方で三色野菜いためを作っている。 【技】B(3)

課外	・ 家で作る「ほっと野菜いため」の実践計画を立てる。(加工品か卵1品&野菜2品もしくは野菜3品)	
9 本 時	◎「ほっと野菜いため」の実践計画の交流 ・ 実践計画を発表し、よさを話し合う。 ・ 自分の実践計画を振り返る。 ・ 実践計画をよりよくする方法を話し合う。 ・ 自分の実践計画を修正する。 ・ 題材全体を振り返る。 ・ これからの家庭生活で実践していきたいことを考える。	◇ 目的に合った「ほっと野菜いため」を作るための方法を工夫している。 【創】B(2)(3)
課外	・ 計画をもとに家庭で実践を行う。 → 掲示板で交流する。	

5 本時の指導計画

(1) 目標

実践計画の交流を通して学んだことや考えたことを生かして、目的に合った「ほっと野菜いため」を作るための方法を工夫する。
【生活を創意工夫する能力】

(2) 評価規準

おおむね満足	努力を要する児童への支援
自分の目的に合わせて、「ほっと野菜いため」を作るための方法を選択している。 【生活を創意工夫する能力】	<ul style="list-style-type: none"> よりよくしたい部分が明確でない児童については、対話を通して自覚できるようにする。 よりよくするための方法が選択できない児童については、学習の積み重ねのプリントや友達の工夫、本時にまとめた内容などを参考にして考えるように促す。

(3) 展開

段階	学習内容及び学習活動	留意点・手立て<◇評価>	備考
見 つ め る 5 分	1 本時の課題を確認する。 ・ 自分の作りたい「ほっと野菜いため」について確認する。 ※「ほっと野菜いため」とは… → 「ほっとタイム」をより充実できるような、家族のための野菜いため	・ 実践計画の中に、家族のためにどのような野菜いためを作りたいか記入する欄を設け、本時の学習につながるようにする。	・ 各自の実践計画 ・ 一食分の図
	〈「事象」とのつながり〉 ① 「ほっと野菜いため」作りの目的を確認するため、プリントの記述を振り返るよう促す。 ② 一食分の図を示し、家庭での食事としてのイメージをもてるようにする。 ↓ 「ほっと野菜いため」を作りたいという思いを喚起することで、実践計画をよりよくするという課題意識を高めるようにする。		
	「ほっと野菜いため」の実践計画をパワーアップしよう。		

<p>高める 30分</p>	<p>2 実践計画を発表し、よさを話し合う。</p> <p>3 自分の実践計画を見直し、よりよくしたい部分を考える。</p> <p>4 グループで話し合う。 ・ 各自のよりよくしたい部分について、グループで方法を話し合う。</p> <p>5 全体で交流する。 ・ グループで話し合った内容について紹介する。 ・ それぞれのアイデアについて、分類していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの計画のよさを話し合うことで、野菜いために計画する新しいポイントに気付くようにする。 新しいポイントに沿って自分の実践計画を見直すことで、よりよくしたい部分が明確になるようにする。 話し合った内容を短冊に書き（①目的・②そのためのアイデア）、発表できるように準備する。 前時までに確認しているポイント（「切り方」「食品の組み合わせ方」「いためる順番」と新しいポイントに沿って分類することで、実践計画を修正する際の参考にできるようにする。 	<p>・短冊</p>
	<p>6 自分の実践計画を修正する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分で修正できない児童については声を掛け、必要な支援を行う。 ◇ 目的に合った「ほっと野菜いため」を作るための方法を工夫している。 【創意工夫】（実践計画） 	<p>・各自のまとめプリント</p>
<p>まとめる 10分</p>	<p>7 題材の学習を振り返る。 ・ 題材のはじめに記述した内容や学習を通して書きためてきた内容を見ながら、できるようになったことを振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 最後に振り返りの内容を発表することで、題材の学習を通して学んだことやできるようになったことを共有できるようにする。 	<p>・題材のはじめの記述</p>
<p>〈「友達」とのつながり〉 各自の目的に合っているかを本時の視点としながら、実践計画についての話し合いから新しいポイントを見つける場面や、よりよくしたい部分についてグループや全体で話し合う場面を位置付ける。 ↓ 新しいポイントを見付けたり、目的を達成するための選択肢が広がるようにしたりすることで、家庭実践の際には、自分の目的に合わせた方法を選択していくことが大切であることに気付くことができるようにする。</p>			
<p>〈未来とのつながり〉 ① 本時に学習した内容を取り入れたり、前時までに書きためてきたプリントを参考にしたりしながら実践計画を修正する活動を位置付ける。 ↓ 実践計画をより具体的なものとするすることで、家庭で実践することへの意欲と見通しをもてるようにする。 ② 学習前の自分と学習後の自分を比べながら、どんな学習をしたことでどのような力がついたか、振り返りを書くよう促す。 ↓ 自分の変化を実感できるようにし、次の学習への意欲や家庭生活をよりよくしていきたいという思いを高めることができるようにする。</p>			

